

1. 第3次総合計画における施策の体系

目指す都市像 (政策)	番号	5	名称	人と文化がふれあうまち			
施策	番号	1	名称	文化財の保護と活用			
主担当部	生涯学習部		主担当課	文化財課		部長名	田原勝則
関係部	総合政策部		関係課	企画政策課 世界遺産推進課 歴史に憩う檜原市博物館			

2. 施策の基本方針(第3次総合計画の基本方針をもとに記入する)

この施策の目的	市民や来訪者が、世界遺産登録を進めている資産をはじめとする本市の豊かな歴史遺産との出会いにより歴史や文化の価値を学び、体感できるまちを目指します。そのために、本市を特色づける貴重な歴史遺産を適切に維持管理し、将来にわたって良好な状態で保護・保全し、活用を進めることで、市民や来訪者にとって歴史遺産が身近な存在であることについての理解促進と愛護意識を高めてゆきます。
---------	--

3. 施策の現状分析(第3次総合計画の現状と課題をもとに記入する)

この施策の概況	この施策に対する市民ニーズなど、具体的な事項について	社会環境や国・県の動向など、施策を取り巻く環境について
	市内には、わが国の成り立ちや発展してきた姿を知る上で欠かすことのできない文化財が豊富に存在し、国や県、そして市の文化財として指定されている。これら指定文化財を適切に保存・保全し次世代へと継承してゆくことが重要である。そのためには国内外に向けてその重要性を理解してもらう啓発活動が大切であると考え。近時では本市の指定文化財や遺跡、発掘調査成果等についての問い合わせ、また史跡整備の早期実現化についての要望が多く寄せられている。	文化財を保存するとともに整備し活用するために史跡地の公有化が必要である。このため目下のところ国・県からの助成を受けて公有化事業を継続実施している。しかしながら、公有化対象面積が広大であり、財政状況を踏まえての公有化のため、整備計画策定と整備までに長期を要するものである。
これまでの成果	史跡植山古墳の整備について古墳の保存を図りながら石室を公開できる実施設計を文化財審議会第1部会で検討を進めている。また、開発に伴う発掘調査を実施するにより、文化財の保護についても成果を得ている。	

4. 指標及びコストの推移

	名称及び単位等	24年度	25年度		26年度	27年度	29年度 (総計目標年度)	備考欄	
		実績	目標	実績	目標	目標	目標		
指標の推移	施策指標① (成果指標)	特別史跡藤原宮跡の国有化(単位:㎡)	492,747	502,367	500,193	508,206	518,641	549,000	
	施策指標② (成果指標)	史跡丸山古墳の公有化(単位:㎡)	61,049	61,231	61,231	65,596	66,083	73,946	
	施策指標③ (成果指標)	歴史に憩う檜原市博物館入館者数(単位:人)				10,000	10,000	10,000	
	施策指標④ (成果指標)								
	施策指標⑤ (成果指標)								
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算			
	歳出 (直接事業費)(a)		266,282	341,936	254,493	342,248			
	歳入 (b)	受益者負担額	17,928	125,066	19,028	95,431			
		国や県からの補助金その他	54,623	56,016	59,292	108,811			
	(a) - (b) = 一般財源		193,731	160,854	176,173	138,006			
	正職員	従事者数 (単位:人)	13.70	14.25	14.75	14.60			
		人件費(c)	84,981	87,951	91,037	90,111			
トータルコスト (a) + (c)		351,263	429,887	345,530	432,359				

5. 施策の評価

有効性の評価	この施策の成果の達成度かどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	成果向上の可能性かどうか	1	1 十分ある	2 ある程度ある	3 あまりない	4 ない
	説明	本市の豊かな歴史資産を地域の人々はもとより多くの方々に知っていただき、郷土への親しみと愛着を育み、後世へと守り伝えていく思いが醸成されることが重要である。そのため、文化財の紹介についての広報活動、埋蔵文化財発掘調査成果の公開、そして文化財への質問に対する丁寧な対応等に努めた結果、理解と愛着が高くなりつつある。そして、本市をはじめ関係市村で世界遺産登録を目指す「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」の価値と意義について市民の方々に着実に理解されてきている。				
	市政全般に対する貢献度かどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	説明	史跡地の公有化を進めることにより、史跡の保存と整備活用事業が実現できる。その結果、地中に眠る文化財が目に見える形として再生され、郷土の豊かな文化を身近に感じることに大きく貢献する。				

6. 施策の課題

この施策の課題	史跡整備活用事業を実施するには史跡地の公有化の進展が不可欠である。史跡の公有化を進めるには地権者の方々の理解と協力が前提であり、なかでも本市に所在する特別史跡・史跡の面積は全国屈指の広さを誇る。そのため国有化・公有化について地権者の方々から協力を取り付けるまでに長期を要し、加えて財政面の裏づけも大きく影響するところである。
---------	--

7. 次年度以降の施策の方向性

総合評価 1次評価	次年度以降の方向性	1	1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明	中期的には史跡の保存整備活用事業が着手できるよう史跡地の公有化を継続的に進めてゆく。また短期的には世界遺産登録に向けての気運を高めるため文化財愛護の意識向上を進めてゆく。			
総合評価 2次評価	次年度以降の方向性		1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明				

8. 構成事業の方向性（それぞれの事務事業における今後の最適手段を検証する）

1次評価	説明	文化財愛護の意識向上のための活動を継続してゆく。史跡の公有化事業についても引き続き継続してゆく。また、世界遺産登録に向けての啓発活動を拡大してゆく。
2次評価	説明	

9. 施策を構成するそれぞれの事務事業の評価

※下記評価の解説

- ・貢献度－事務事業評価の結果をもとに、この施策での貢献度(重要度)を絶対評価で示しています。
(a: 不可欠かつ施策の中核をなす事業、b: 不可欠な事業、c: 不可欠ではないが実施が望ましい事業、d: あまり有効ではない事業)
- ・方向性－事務事業評価の結果をもとに、この施策からみた各事務事業の今後の方向性を絶対評価で示しています。
(拡大する、見直しながらかつ続ける、縮小する、廃止又は休止する、完了する)
- ・優先度(ソフト事業(任意)のみ)－施策内での事務事業の優先度を相対評価で示しています。
(優先度が高い順に A、B、C、D)

この施策に関連する事務事業評価の内容(評価内容の転記)				施策評価		
NO.	課名、事務事業名及び事業種別	事業の内容	事業の方向性及びH25決算額	貢献度	方向性	優先度(ソフト任意)
1	企画政策課	女子サッカーチームINAC神戸とアライアンス契約を締結し、業務提携を行う。	2 現状のまま継続	b	見直しながらかつ続ける	D
	世界遺産登録推進事業 (ソフト(任意))	<ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産PR看板の掲出 ・エスコートキッズ招待(全3回) ・試合観戦者招待(全5回) ・所属選手によるサッカー教室の開催 ・所属選手による橿原市および世界遺産のPR 	2,632 (千円)			
2	世界遺産推進課	特別史跡藤原宮跡内における買収を実施し、史跡地内の民有地の公有化を図る。特別史跡藤原宮跡内の約6.5万㎡を文化庁より占用し、平成18年度から地元5町の住民で構成される「藤原宮跡整備協力委員会」の協力を得て、春・夏・秋・花蓮・朝堂院東ゾーンとして花の栽培を行い、橿原市HPや啓発用ポスター・チラシ等でそれらのPR活動を行なうことにより特別史跡藤原宮跡の知名度向上に寄与するよう努めている。また、橿原市藤原京資料室では藤原宮跡を紹介する展示(藤原京1/1000模型等)を行い、史跡の重要性について周知・啓発を行なう。	2 現状のまま継続	b	見直しながらかつ続ける	C
	藤原宮跡整備対策事業 (ソフト(任意))		23,862 (千円)			
3	世界遺産推進課	「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」がもつ顕著な普遍的価値の証明文と構成資産の範囲の検討を推進協議会で行なった。藤原宮跡の資産価値とその完全性を高めるため、地権者に理解と同意を得て史跡拡大を推進、平成26年3月18日付で追加指定を行なった。広報連載・巡回展等を通じて啓発活動を実施、市民をはじめひろく公衆に飛鳥・藤原の資産の重要性についての理解促進に努めた。また世界遺産登録に向けての地域知名度アップを図るため、女子プロサッカーチームINAC神戸と業務連携し、ホームスタジアムでの世界遺産PR看板の設置等を行なった。	1 拡大する	a	拡大する	A
	世界遺産登録推進事業 (ソフト(任意))		16,949 (千円)			
4	文化財課	文化財審議会部会において史跡における発掘調査方法等に関し、提言をもらう。指定文化財の修理に要する経費の補助を行う。公有化した史跡の草刈・倒木処理等維持管理を実施する。市指定文化財「東の平田家」について、受付人員の配置や清掃等施設管理業務の契約を行い、適切に管理を行う。文化財課職員による出前講座等への講師派遣や、文化財資料の貸し出しを行う。	1 拡大する	a	拡大する	
	文化財保護管理活用事業 (内部管理・維持管理)		62,849 (千円)			
5	文化財課	・文化財保護法に基づく手続き、回答並びに申請書の提出や各種照会に伴う回答。	2 現状のまま継続	b	見直しながらかつ続ける	
	埋蔵文化財発掘調査事務事業 (内部管理・維持管理)	<ul style="list-style-type: none"> ・土木行為者に埋蔵文化財保護についての理解と計画の見直しの協力を求める。 ・発掘調査、試掘確認調査、立会調査の実施。 ・出土資料の整理及び報告書刊行。 	37,820 (千円)			
6	歴史に憩う橿原市博物館		1 拡大する	b	拡大する	B
	博物館運営事務事業 (ソフト(任意))	<ul style="list-style-type: none"> ・特別展や企画展等の活動を実施する。 ・出土した遺物等を適切な環境で保管・管理する。 	110,381 (千円)			

事務事業評価表(平成25年度実施事業対象)

(作成日:平成26年6月6日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	世界遺産登録推進事業									
	担当部名	総合政策部	担当課名	企画政策課	課長名	庵坂 和史					
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち							
		施策	1	文化財の保護と活用							
	予算事業名	スポーツ推進事業費									
	事業の開始年度	平成	24	年度	事業の終了予定年度	平成	—	年度			
	対象	市民									
	事業の 目的	スポーツを通じて、世界遺産登録に向けた啓発やPR活動を行うとともに、青少年の健全育成と地域の活性化を図る。		事業の 内容説明	女子サッカーチームINAC神戸とアライアンス契約を締結し、業務提携を行う。 ・世界遺産PR看板の掲出 ・エスコートキッズ招待(全3回) ・試合観戦者招待(全5回) ・所属選手によるサッカー教室の開催 ・所属選手による榎原市および世界遺産のPR						
	妥当性 評価	なぜ市が 関与して いるのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が直接的・包括的に関与すべき事業							
			2	2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)							
市の関与の 必要性を評 価してくだ さい	説明	世界遺産登録に向けてのPRと、青少年の健全育成を目指した事業であるため、市が関与することが望ましいが、事業の手法については、改善の余地が存在する。									
やめた 場合の 影響は	2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い						
		説明	世界遺産登録に向けた効果的なPRのためには、本登録までの継続した取り組みが必要である。								
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等			24年度	25年度		26年度	27年度	29(総計 目標) 年度	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み	
	成果指標	サッカー教室参加者			150	150	177	150	150	150	
	活動指標 ①	エスコートキッズ参加者			55	66	44	44	44	44	
	活動指標 ②	市民招待デー参加者			533	750	305	200	200	200	
	コストの 推移 (単位: 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出(直接事業費)(a)			3,229	2,473	2,632	1,800			
		歳入 (b)	受益者負担額								
			国県補助金等その他								
		(a) - (b) = 一般財源			3,229	2,473	2,632	1,800			
正職員		従事者数(単位:人)			0.70	0.70	1.15	1.15			
		人件費(c)			4,342	4,320	7,098	7,098			
トータルコスト(a)+(c)			7,571	6,793	9,730	8,898					
単位当 りコスト	計算式等 ()/()										
備考 (これまでの 実績等)											

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要		
		説明	市民招待デーへの応募者が減少しているため、広報の充実や、より市民の方々に関心を持っていただける内容を検討していく必要がある。						
評価	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	メディアを通じた全国的なPRが可能であるという点で、世界遺産登録に向けた知名度の向上や、機運の醸成が期待される。						
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		3	現時点で効率性が非常に高く、これ以上の改善は見込めない	概ね高い効率性が発揮されているが、さらに向上できる余地はある	効率性がやや低く、見直しによる改善が期待される	4 現時点では効率性が低く、大幅な改善が必要		
		説明	世界遺産登録や檀原市のPR方法を工夫・改善することで、より効果的にPRできるように努める。また、市民招待およびサッカー教室実施を工夫・見直しすることにより、諸経費の削減を検討する。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		INAC神戸との連携によるPR方法を工夫し、積極的に活用していくことで、世界遺産登録に向けたより効果的なPRに努める。 また、事業についての広報活動を充実させ、市民招待及び教室等の参加者を増加を図ることで、世界遺産登録に対する市民の関心と理解を深めていく。						
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		B
説明		コストの削減と有効性の向上に努めながら、世界遺産登録本登録に向けて、継続して取り組んでいく。							

事務事業評価表(平成25年度実施事業対象)

(作成日:平成26年6月5日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	藤原宮跡整備対策事業									
	担当部名	総合政策部	担当課名	世界遺産推進課	課長名	岸本 裕史					
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち							
		施策	1	文化財の保護と活用							
	予算事業名	藤原宮跡整備対策事業費									
	事業の開始年度	平成	18	年度	事業の終了予定年度	平成	年度				
	対象	特別史跡藤原宮跡への来訪者			事業の 内容説明	特別史跡藤原宮跡内における買収を実施し、史跡地内の民有地の公有化を図る。特別史跡藤原宮跡内の約6.5万㎡を文化庁より占用し、平成18年度から地元5町の住民で構成される「藤原宮跡整備協力委員会」の協力を得て、春・夏・秋・花蓮・朝堂院東ゾーンとして花の栽培を行い、檀原市HPや啓発用ポスター・チラシ等でそれらのPR活動を行なうことにより特別史跡藤原宮跡の知名度向上に寄与するよう努めている。また、檀原市藤原京資料室では藤原宮跡を紹介する展示(藤原京1/1000模型等)を行い、史跡の重要性について周知・啓発を行なう。					
	事業の 目的	国民の貴重な文化遺産として世界遺産委員会事務局の暫定リストに登録された特別史跡藤原宮跡を後世に継承し、また遺産活用として花園整備を行うことにより遺産の荒廃防止および景観形成・保全に配慮し、来訪者や地域住民が文化遺産に愛着を持てるような整備等を行うことを目的とする。									
	市の関与の 必要性を評 価してくだ さい	なぜ市が 関与して いるのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が直接的・包括的に関与すべき事業							
				2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)							
説明		当市が推進している世界遺産登録に向け、文化庁もしくは国土交通省が実施する特別史跡藤原宮跡整備基本構想に基づく整備までの間、事業の目的と事業の内容説明に記載した理由により周知・啓発を行なう必要がある。									
やめた 場合の 影響は		1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い					
説明	買収された後何ら整備されない土地に対する国による早期の整備要望が強い状況下で当市が実施する花園整備や列柱設置を取りやめた場合、土地を放置した状態が続くことになり国による本格整備が前提条件の用地買収に応じない風潮が生まれることは必ず今後の用地買収進捗に多大な影響を及ぼすことになる。										
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等			24年度	25年度		26年度	27年度	29(総計 目標) 年度	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み	
	成果指標	檀原市藤原京資料室入室者数			13,512	14,500	11,572	14,500	14,500	14,500	
	活動指標 ①	檀原市HPの更新			35	35	35	35	35	35	
	活動指標 ②	啓発用ポスター等の掲出・チラシの配布			ポ150 チ13000	ポ150 チ9500	ポ150 チ9500	ポ150 チ8500	ポ150 チ8500	ポ150 チ8500	
	コストの 推移 (単位: 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出(直接事業費)(a)			22,771	23,474	23,862	34,734			
		歳入 (b)	受益者負担額								
			国県補助金等その他			11,300	11,557	11,572	11,457		
		(a) - (b) = 一般財源			11,471	11,917	12,290	23,277			
正職員		従事者数(単位:人)			3.00	3.00	3.00	3.00			
		人件費(c)			18,609	18,516	18,516	18,516			
トータルコスト(a)+(c)			41,380	41,990	42,378	53,250					
単位当 りコスト	計算式等 ()/()										
備考 (これまでの 実績等)											

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	1	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	<p>檀原市藤原京資料室への来室者数、花園の開花時期の問い合わせ電話や雑誌・テレビ等の取材申込、旅行社の観光ツアーへの組み入れ、列柱を目にした来訪者の好感触等これら全てが増加傾向にあることから特別史跡藤原宮跡の周知・啓発への効果が確実に高まっている。</p>							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	<p>世界遺産登録推進と国が策定した「特別史跡藤原宮跡整備基本構想」に基づく整備を早期に進める上でその前提条件の一つである用地買収を行っていることから貢献度は高いと考える。</p>							
評価	効率性評価	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	1	現時点で効率性が非常に高く、これ以上の改善は見込めない	概ね高い効率性が発揮されているが、さらに向上できる余地はある	効率性がやや低く、見直しによる改善が期待される	4 現時点では効率性が低く、大幅な改善が必要			
			説明	<p>暫定整備及び檀原市藤原京資料室の運営は、藤原宮跡整備協力委員会に直接経費のみで委託していることやPRについても観光拠点への無料掲出を条件に依頼していることからコスト軽減の余地はない状況である</p>						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		<p>藤原宮跡の花園のPRを檀原市HP等で行なったことにより、宮跡への来訪者は増加しているが隣接の檀原市藤原京資料室の25年度の来訪者は若干減少した。今後も展示内容のリニューアルを計画し、史跡の重要性だけでなく花園への来訪者にも足を運んでいただけるようPRし、入室者の増加に繋げたい。秋のコスモスの時期には多くの来訪者へのトイレ不足の問題解消のため期間限定でバイオトイレを資料室駐車場に設置する等の対応を行なっている。23年度より列柱の通年設置が可能となっているが老朽化が激しいことから年次的に改修を行なう。以上の改善を今年度も行なうことにより花園の認知度アップと花園観賞の利便性向上や藤原宮跡への理解度を高めることに繋がりリピーターや新規来訪者の増加に資すると考える。</p>							
	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する			課内優先度	C	
修正行動			説明	<p>4 廃止又は休止する</p> <p>5 完了する</p> <p>花園の認知度向上のためイベントでのチラシ配布など積極的に行なう。整備協力委員会と協働し植栽に関する検討を行い、より良い花園整備を進める。来訪者の利便性については、文化庁と引き続き協議の上、安全対策等を進め、来訪者増を目指す。今後周辺施設等の整備が必要になると考える。</p>						

事務事業評価表(平成25年度実施事業対象)

(作成日:平成26年6月5日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	世界遺産登録推進事業									
	担当部名	総合政策部	担当課名	世界遺産推進課	課長名	岸本 裕史					
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち							
		施策	1	文化財の保護と活用							
	予算事業名	世界遺産登録推進事業費及び企画調整事務費									
	事業の開始年度	平成	19	年度	事業の終了予定年度	平成	—	年度			
	対象	史跡等(構成資産)・市民(国民)			事業の 内容説明	「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」がもつ顕著な普遍的価値の証明文と構成資産の範囲の検討を推進協議会で行なった。藤原宮跡の資産価値とその完全性を高めるため、地権者に理解と同意を得て史跡拡大を推進、平成26年3月18日付で追加指定を行なった。広報連載・巡回展等を通じて啓発活動を実施、市民をはじめひろく公衆に飛鳥・藤原の資産の重要性についての理解促進に努めた。また世界遺産登録に向けての地域知名度アップを図るため、女子プロサッカーチームINAC神戸と業務連携し、ホームスタジアムでの世界遺産PR看板の設置等を行なった。					
	事業の 目的	「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」の世界遺産登録を目指し、構成資産(史跡等)がもつ本質的価値を証明する範囲を定め、必要に応じて指定範囲の拡大を図る。また史跡等の保存管理計画の策定、さらに史跡等の周辺環境を保全する緩衝地帯を設定し、世界遺産に相応しい資産と証明することを目的とする。									
	妥当性 評価	なぜ市が 関与して いるのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が直接的・包括的に関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)							
			説明	奈良県・桜井市・明日香村とともに本市が世界遺産「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」の提案者であるため「世界遺産推薦書」の提出には、資産の完全性(史跡範囲の拡大)、保存管理計画の策定(地方公共団体が策定)、緩衝地帯の設定が義務付けられているからである。							
市の関与の 必要性を評 価してくだ さい		やめた 場合の 影響は	1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い				
説明	本事業は、奈良県・桜井市・明日香村との共同提案であり、ユネスコもその価値を認め、平成19年1月には世界遺産暫定一覧表に登載した。7年が経過し、推薦準備事業を一層推進しなければならない状況の中、本事業を取りやめることは関係機関や世界に対する背任行為となる。										
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等			24年度	25年度		26年度	27年度	29(総計 目標) 年度	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み	
	成果指標	世界遺産登録			—	—	—	—	—	—	
	活動指標 ①	指定拡大達成率			79.6	80.0	80.0	80.5	81.0	82.0	
	活動指標 ②	広報掲載回数:年12回			12	12	12	12	12	12	
	コストの 推移 (単位: 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出(直接事業費)(a)			17,747	18,101	16,949	25,808			
		歳入 (b)	受益者負担額								
			国県補助金等その他			4,200	4,000	4,000	5,400		
		(a) - (b) = 一般財源			13,547	14,101	12,949	20,408			
正職員		従事者数(単位:人)			3.00	3.00	3.00	3.00			
		人件費(c)			18,609	18,516	18,516	18,516			
トータルコスト(a)+(c)			36,356	36,617	35,465	44,324					
単位当 りコスト	計算式等 ()/()										
備考 (これまでの 実績等)	登録推進協議会での推薦準備作業では、顕著な普遍的価値や資産構成の検討を重ねている。藤原宮跡では指定率の拡大が着実に進んでいる。世界遺産登録の普及啓発では、世界遺産「飛鳥・藤原」登録推進協議会事業、本市の集客イベントや刊行物での世界遺産登録PRを実施している。										

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	資産の完全性を高めるため史跡指定の拡大が必要不可欠である。藤原宮跡では多くの地権者の理解により、更なる範囲拡大へ着実に継続できている。また、市民への理解とその浸透を図るため広報誌への掲載、巡回展示、出前講座などを行ない啓発に繋げている。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	史跡の範囲拡大は、保存管理計画の策定及び緩衝地帯設定の前提条件である。これらの策定等で、資産(史跡)を取り巻く風土の保全や保存活用が実施できる。また、世界遺産登録への啓発は、生きた歴史教材及び本市の観光資源としての理解を深めることができる。							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	1	現時点で効率性が非常に高く、これ以上の改善は見込めない	概ね高い効率性が発揮されているが、さらに向上できる余地はある	効率性がやや低く、見直しによる改善が期待される	4	現時点では効率性が低く、大幅な改善が必要			
			説明	現在、史跡指定拡大の協議を進めているのは広大な藤原宮跡だけで、他の構成資産は指定拡大が行えず、事業を進展させるには人員不足である。また、緩衝地帯の設定においては、都市計画等に精通した人員が不可欠であり、業務に適した人員配置が必要である。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		「飛鳥・藤原」登録推進協議会で構成資産の評価と確定を推進し、構成資産の史跡範囲拡大を進める必要がある。史跡の範囲拡大ができれば、世界遺産登録に必要な保存管理計画の策定と緩衝地帯の設定を行なうことができ、世界遺産登録における本市の役割を果たすことができる。その効果として、構成資産である史跡の価値が高まり、史跡の活用に留まらない新しい事業を行うこともできる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する			課内優先度	A
4 廃止又は休止する				5 完了する						
		説明	世界遺産「飛鳥・藤原」登録推進協議会による包括的保存計画、世界遺産推薦書原案作成に向けた負担金の増額が必要である。また世界遺産登録に向けた機運醸成のため、本市においても新規イベントによる啓発事業等が必要である。							

事務事業評価表(平成25年度実施事業対象)

(作成日:平成26年 月 日)

事業の種類を選択してください。⇒ (内部管理・維持管理) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	文化財保護管理活用事業							
	担当部名	生涯学習部	担当課名	文化財課	課長名	竹田正則			
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち					
		施策	1	文化財の保護と活用					
	予算事業名	報償給与費、文化財保護総務費、史跡等保存整備事業費、平田家管理運営費							
	事業の開始年度	平成		年度	事業の終了予定年度	平成	年度		
対象	指定文化財		事業の 内容説明	文化財審議会部会において史跡における発掘調査方法等 に関し、提言をもらう。指定文化財の修理に要する経費の補 助を行う。公有化した史跡の草刈・倒木処理等維持管理を 実施する。市指定文化財「東の平田家」について、受付人員 の配置や清掃等施設管理業務の契約を行い、適切に管理 を行う。文化財課職員による出前講座等への講師派遣や、 文化財資料の貸し出しを行う。					
事業の 目的	市指定文化財への指定や、指定文化財の所有者・管理 者が行う維持に係る経費を補助し、文化財の適切な保 全と次世代への継承を目的とする。更に整備に向けた 史跡の公有化を進め、公有化済みの史跡は適切に管 理を行い、整備を実施する。また、文化財の普及啓発を 通じて、文化財愛護の精神を高める。								
妥当性 評価	なぜ市が 関与して いるのか	1 公共性や収益性の観点から、市が直接的・包括的に関与すべき事業							
		2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民 ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)							
市の関与の 必要性を評 価してくだ さい	やめた 場合の 影響は	説明							
			1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い			
指標の 推移	名称及び単位等		24年度	25年度		26年度	27年度	29(総計 目標) 年度	
			実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み	
成果指標	史跡丸山古墳公有化(%)		73	73	73	78	79	80	
活動指標 ①									
活動指標 ②									
D O 実 施	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算			
	歳出(直接事業費)(a)		75,420	54,037	62,849	148,388			
	歳入 (b)	受益者負担額	47	41	90	51			
		国県補助金等その他	6,317	23,614	29,139	82,911			
	(a) - (b) = 一般財源		69,056	30,382	33,620	65,426			
	(単位: 千円)	正職員	従事者数(単位:人)	2.35	2.60	2.15			1.90
			人件費(c)	14,577	16,047	13,270			11,727
	トータルコスト(a)+(c)		89,997	70,084	76,119	160,115			
単位当 りコスト	計算式等 ()/()								
備考 (これまでの 実績等)									

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	1	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	入念な史跡等の維持管理及び活用等を実施することにより、指定文化財への見学者が増加する。更には史跡等文化財の毀損が発生した際にも、適正な維持管理を行ってれば被害の早期発見につながり、そこに係る経費の縮小に反映されると思われる。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	歴史事象を実際に体感できる史跡等文化財を良好に維持管理及び活用することで、市民が文化財を身近に感じる場として利活用する機会が増え、文化財に対する愛護や保護への意識の高揚につながる。							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	2	1 現時点で効率が非常に高く、これ以上の改善は見込めない	2 概ね高い効率が発揮されているが、さらに向上できる余地はある	3 効率がやや低く、見直しによる改善が期待される	4 現時点では効率が低く、大幅な改善が必要				
		説明	史跡の公有化が進むことにより管理に係る経費は増加する。しかし適切に維持管理を行うと、文化財の劣化や損傷を最小限に抑えることができ、修理に係る経費も削減することができる。							
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		県が新たに創出した史跡等整備活用補助金などを積極的に活用する事により、市単独経費の割合を軽減していく。地域住民と協働で史跡の環境維持を行う事により、指定文化財等の良好な維持管理が図れる事ができると共に、地域住民の文化財愛護精神を高める事ができる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する			課内優先度	
説明			4 廃止又は休止する	5 完了する						
		説明	早期に史跡指定地等を公有化し、整備事業を推進して文化財の活用の促進を図ると共に、指定文化財の啓発活動をより一層行う。							

事務事業評価表(平成25年度実施事業対象)

(作成日:平成26年 月 日)

事業の種類を選択してください。⇒ (内部管理・維持管理) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	埋蔵文化財発掘調査事務事業							
	担当部名	生涯学習部	担当課名	文化財課	課長名	竹田正則			
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち					
		施策	1	文化財の保護と活用					
	予算事業名	緊急発掘調査等事業、民間受託等発掘調査事業							
	事業の開始年度	昭和	58	年度	事業の終了予定年度	平成	年度		
	対象	埋蔵文化財		事業の内容説明	・文化財保護法に基づく手続き、回答並びに申請書の提出や各種照会に伴う回答。 ・土木行為者に埋蔵文化財保護についての理解と計画の見直しの協力を求める。 ・発掘調査、試掘確認調査、立会調査の実施。 ・出土資料の整理及び報告書刊行。				
	事業の目的	埋蔵文化財の保護							
	妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1 公共性や収益性の観点から、市が直接的・包括的に関与すべき事業						
			2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)						
市の関与の必要性を評価してください	やめた場合の影響は	説明							
			1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い			
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等	24年度	25年度		26年度	27年度	29(総計目標)年度	
			実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み	
	成果指標								
	活動指標①								
	活動指標②								
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出(直接事業費)(a)		60,245	139,038	37,820	97,840		
		歳入(b)	受益者負担額	17,881	125,025	18,938	92,080		
			国県補助金等その他	32,705	16,845	14,581	9,043		
		(a) - (b) = 一般財源		9,659	-2,832	4,301	-3,283		
正職員		従事者数(単位:人)	2.55	2.50	3.00	3.00			
		人件費(c)	15,818	15,430	18,516	18,516			
トータルコスト(a)+(c)		76,063	154,468	56,336	116,356				
単位当たりコスト	計算式等 ()/()								
備考(これまでの実績等)									

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	1	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	事業計画の見直しや発掘調査により埋蔵文化財の保護が図られている。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	発掘調査の成果を報告書として刊行し、埋蔵文化財の公開と活用に努めている。							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	2	現時点で効率性が非常に高く、これ以上の改善は見込めない	概ね高い効率性が発揮されているが、さらに向上できる余地はある	効率性がやや低く、見直しによる改善が期待される	4 現時点では効率性が低く、大幅な改善が必要				
		説明	入札等の契約規則に拠る予算執行であるため、これ以上の低減は困難である。							
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		土木行為等に伴う発掘調査は、人員不足のため迅速に実施するのが困難な状況であるため、職員を増員していく。当市のインフラ整備が早期に実現され、民間資金が当市に投入される。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する			課内優先度	
説明			4 廃止又は休止する	5 完了する	法定受託事務及び権限委託事務のため、事務内容の大幅な改変はない。					

事務事業評価表(平成25年度実施事業対象)

(作成日:平成26年 月 日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	博物館運営事務事業								
	担当部名	生涯学習部	担当課名	歴史に憩う榎原市博物館	課長名	竹田正則				
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち						
		施策	1	文化財の保護と活用						
	予算事業名	博物館管理運営費、展示事業費								
	事業の開始年度	昭和	53	年度	事業の終了予定年度	平成	年度			
	対象	入館者			事業の 内容説明	・特別展や企画展等の活動を実施する。 ・出土した遺物等を適切な環境で保管・管理する。				
	事業の 目的	入館者に快適な見学空間を提供するため施設を適切に管理・運営し、展示・保存等を通して文化財の保護・活用を図る。								
	市の関与の 必要性を評 価してくだ さい	なぜ市が 関与して いるのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が直接的・包括的に関与すべき事業						
				2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)						
説明		本市の歴史・文化財を紹介し、市民等へ文化財への理解を促すことは行政の責務である。								
やめた 場合の 影響は		2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い				
説明	市民が本市の歴史・文化財に触れ、理解する機会を失うことになる。また、国民の財産である文化財に対する保護の精神が希薄となり、本市の文化財が消滅し、本市の資産としての歴史遺産を失うことになる。									
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等			24年度	25年度	26年度	27年度	29(総計 目標) 年度	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	
	成果指標	入館者数			0	0	0	10,000	10,000	10,000
	活動指標 ①	展覧会開催数			0	0	0	4	4	4
	活動指標 ②									
	コストの 推移 (単位: 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出(直接事業費)(a)			86,870	104,813	110,381	33,678		
		歳入 (b)	受益者負担額		0	0	0	3,300		
			国県補助金等その他		101	0	0	0		
		(a) - (b) = 一般財源			86,769	104,813	110,381	30,378		
正職員		従事者数(単位:人)		2.10	2.45	2.45	2.55			
		人件費(c)		13,026	15,121	15,121	15,739			
トータルコスト(a)+(c)			99,896	119,934	125,502	49,417				
単位当 りコスト	計算式等 ()/()									
備考 (これまでの 実績等)										

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	資料館展示改修が完了し、本市の歴史を体感しながら学ぶことのできる新しい博物館に対し、市民の関心が高まっている。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	文化財に関する情報を広く発信できるだけでなく、観光の拠点としての性格も持っているため、入館者に檀原市の歴史や文化財と触れ合う場を広く提供することができる。							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	1	1 現時点で効率性が非常に高く、これ以上の改善は見込めない	2 概ね高い効率性が発揮されているが、さらに向上できる余地はある	3 効率性がやや低く、見直しによる改善が期待される	4 現時点では効率性が低く、大幅な改善が必要				
		説明	入札等の契約規則に則った予算執行を実施しているために、コスト低減できない。							
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		重要文化財の展示を含めた年4回の展覧会や関連行事を実施する。 展覧会の開催による入館者の増加によって、檀原市の歴史・文化財への理解と、文化財に対する啓発が進むため、郷土愛を育むことができるだけでなく、文化財への愛護や保護の意識を高めることができる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		B	
説明			4 廃止又は休止する	5 完了する	予算を確保し、重要文化財の陳列も含めた展覧会のほか、講演会や体験講座等のイベントの開催を拡充する。					